

二十歳の頃

18期 B班 有野・関根・中村

【研究動機】

加藤恭子ゼミナールで学ぶ事は『人』が大きく関わっている。その中でこの班の全員の共通点は接客業でのアルバイトをしていることだ。接客業は人と人が話す場面が多い。そこで班員の一人が実際に働いているコンビニの親元会社であるMIC株式会社に研究対象を絞った。

【取材させていただいた方】

MIC株式会社 代表取締役会長 水上光啓様

【水上会長について】

昭和63年に代表取締役社長に就任。第27回優秀経営者顕彰で最優秀経営者賞に選ばれる。企画から印刷までの生産体制を構築し、堅固な事業基盤を築く。デジタル化が急激に進む印刷業界において常に変革を説き、多様な分野でオンリーワンの製品を作り上げることを経営戦略に掲げる。

【企業概要】

元は水上印刷株式会社であり今年度からMIC株式会社に社名変更。社員は300名程であり平均年齢も29歳と若い年代が多い構成である。事業内容としては印刷業、販促プロモーション、マーケティングプロモーション改善などさまざまな分野に企業を展開している。

【主な取引先】

(株)ファミリーマート、東急ハンズ、小田急百貨店

(流通)楽天グループ

(機器メーカー)コミカミノルタ、キャノン、富士フイルムビジネスイノベーション

(食品・医療品メーカー)日清食品、エスエス製薬、アートネイチャー

【MIC株式会社のきっかけ】

印刷業界でも高い実績を上げていたが、会社で掲げるのは常に変革を求めることだ。前進し続ける企業にとって最も希少価値なものの一つは「時間」である。本質的な業務にどれだけ時間を投資できるかが企業の成長や後退に大きく関わる。故に、常に改善し続けることが競争優位を維持し続ける上で不可欠になる。このようなことから多くの分野に企業を展開し常に変革を遂げていくMIC株式会社に社名変更した。

【質問内容】

Q1水上会長の学生時代や20歳の頃の夢は何か

Q2マーケティング活動において実績を維持し続けるために行っていることはなにか。

Q3これまでの失敗や成功の経験から今に活かされていることは何か。

Q4水上会長が20歳の頃から変わらずに続けていることは何か。

Q5学生時代にしておくべきことは何か。

【今回で学んだこと】

- ・学生のうちにきっかけ作りをすること
- ・自分のことだけでなく周囲にも気を配るべき
- ・失敗を活かしてどうしたらよくなるかを考えて実行に移す
- ・良い環境を作るには共有化が必要
- ・今の内から勉学と遊びを充実させるべき
- ・コミュニケーション能力はこの先とても大切になってくる